

PD-19



宮城県におけるがん登録の実務者育成(第3報) 実務の継続性とキャリア形成を目的とした 県拠点病院における到達目標の設定

金村政輝^{1,2,3,4} 佐藤真弓² 齋藤美登里^{3,4} 只野尚子⁵

- 1 宮城県立がんセンター 研究所がん疫学・予防研究部
- 2 宮城県立がんセンター 院内がん登録室
- 3 宮城県立がんセンター 宮城県がん登録室
- 4 元・公益財団法人宮城県対がん協会
- 5 公益財団法人宮城県対がん協会

【目的】

- ・ 全国がん登録が開始され、厚生労働大臣による「院内がん登録の実施に係る指針」も示され、都道府県がん登録事業及び院内がん登録を行う病院の双方において、その実務を担う職員の活躍が期待されている。

- ・ しかし、我々がこれまで行った調査では、職員の異動によって実務の継続性が危ぶまれる状態にあり、しかも、院内がん登録の実施体制及び実績との間に関連があることが判明している。

①東北地方におけるアンケート調査

(H29.1日本疫学会発表)

- ・ 対象:東北地方のがん診療連携拠点病院など32病院(回答率87.5%)
- ・ 結果:
 - 1施設当たりのがん登録従事者 2.7人
 - 内訳は、診療情報管理士1.5人、その他1.1人
 - 経験年数 3年未満は50.6%
 - 雇用形態 常勤の正職員54.6%、それ以外45.4%
 - 従事状況 専従(8割以上)53.3%、専任(5~7割)16.0%、兼任30.7%
- ・ 結論:実務者の異動により院内がん登録の実務の継続性が危ぶまれる。

- ・ このような課題を解決するためには、雇用形態の改善とともにキャリア形成の視点での取り組みが必要である。

【方法】

- ・ 上記の課題認識のもと、県拠点病院である宮城県立がんセンターにおいて、実務の継続性とキャリア形成を目的とした到達目標の設定に着手した。

【結果】

- ・ がん登録室長(医師)と副室長(診療情報管理士)の2人で検討を行った。
- ・ 検討開始から3週間後の8月、到達目標を設定した。
 - 目指すべき姿を明示
 - スキルアップが必要な領域の抽出
 - 1~5年目の到達目標の設定

【考察】

- ・ 具体的な目標を明示し、共有することで、現状を評価することが可能になった。
- ・ さらに、目標を達成するために何をすべきか、将来に視野を向けて有意義な話を出来るようになった。
- ・ 現在、到達目標は年間計画や役割分担の設定など様々な場面において活用している。
- ・ 課題としては、ヒアリングにおけるフィードバックが挙げられる。
 - 自己評価と上司による評価の違いの伝え方
 - 具体的に有効な改善策の検討
- ・ 以上の取り組みを、宮城県がん登録事業においても活用すべく作業を行った。

⇒明日のポスター発表2で発表予定

PD-42
齋藤美登里 他.
「宮城県におけるがん登録の実務者育成(第4報)
~宮城県がん登録室における診療情報管理士の到達目標の設定について~」

- ・ 同様の取り組みを行う施設が地域において増えることにより、施設・地域における実務の継続性が高まるとともに、実務者にとってもキャリア形成につながることを強く期待している。

②全国のがん診療連携拠点病院における現状調査の分析

(H29.6当学会、H29.11日本公衆衛生学会発表)

- ・ 対象:全国のがん診療連携拠点病院427施設
- ・ 結果:

| | 1病院当たり の人数 | うち、 診療情報 管理士 | 経験年数 | 雇用形態 | 従事状況 | 5年以内の フット アップ | | |
|---------------|---------------|--------------------|--------------------------------------|-------------|-------------------------------|---------------------|--------------------|--------------------|
| | | | | | | 5年以内の フット アップ | ステップ アップ の割合 | ステップ アップ の割合 |
| 県拠点 49病院 | 4.4 | 2.8 (63.1%) | <3年 37.8% 3-9年 54.8% ≥10年 6.9% | 常勤 65.9% | 専従53.0% 専任20.7% 兼任22.6% | 実施 51.0% | 実施 91.8% | 実施 61.2% |
| 地域拠点 350病院 | 3.6 | 2.7 (76.0%) | <3年 35.3% 3-9年 58.0% ≥10年 5.5% | 常勤 85.9% | 専従40.0% 専任21.6% 兼任35.5% | 実施 33.1% | 実施 79.8% | 実施 37.0% |
| がん診療 28病院 | 2.7 | 2.1 (78.7%) | <3年 50.7% 3-9年 46.7% ≥10年 0% | 常勤 94.7% | 専従37.3% 専任20.0% 兼任42.7% | 実施 8.6% | 実施 50.0% | 実施 7.1% |

- ・ 結論:病院の種類により院内がん登録の実施体制に違いが認められ、実績についても違いが見られた。

到達目標

【目指すべき姿】
都道府県がん診療連携拠点病院として、宮城県の院内がん登録をリードする意欲と実力を兼ね備えた人材
そのために、
①登録ルールを理解し、正確ながん登録業務を行うことができる。
②活用ルール・がん登録情報加工、研究利用に提供するとともに、自ら分析し、発表することができる。
③教育・後進、院内他職種、外部向けに対する指導を行うことができる。
④事務・連携…内外の委員会の事務、室長・副室長の代理、他部署と連携した活動ができる。

| 登録 | 利活用 | 教育 | 連携・連携 |
|--|--|---|---|
| 1年目 【5大がん】指導の下で登録できる(1日5~6件) 院内がん登録実務者認定試験(初級)合格 【住民票照会】作業の手慣れを行うことができる。 | 指導の下で簡単な集計を行なうことができる。 指導の下で県内外の比較資料を作成することができる。 | 配布された教材、資料を整理し、必要ときに取り出すことができる。 | 委員会の庶務の手慣れを行うことができる。 院内がん登録の根拠となる法令、指針、要綱等の概略について理解し、説明できる。 |
| 2年目 【5大がん】空白の項目なく登録することができる(1日7~10件) 【5大がん以外】指導の下で登録できる(1日5~6件) 【住民票照会】作業の半分程度を担うことができる。 | データ提供の簡単な問い合わせに対応できる。 集計の大部分を行うことができる。 指導の下でテーマを決めて分析し、発表することができる。 | 後進に対して必要な助言・指導を行うことができる。 | 指導の下で委員会の庶務の半分程度を担うことができる。 指導の下で現状報告や各種照会への回答などの書類を作成することができる。 |
| 3年目 【5大がん】1人で空白の項目なく正確に登録することができる(1日7~10件) 【5大がん以外】空白の項目なく登録することができる(1日7~10件) 院内がん登録実務者認定試験(中級)合格 【住民票照会】作業のほとんどを担うことができる。 | 簡単なデータセットの申請受付・提供ができる。 集計を1人で正確に行うことができる。 指導の下で筆頭演者として学会発表を行うことができる。 | 院内他職種に対してがん登録の基本的な内容を指導することができる。 実務者育成支援事業において講義・指導の一部を担うことができる。 | がん登録以外の情報が必要なときに他部署に相談できる。 委員会(内部)の庶務のほとんどを行うことができる。 現状報告や各種照会への回答などの書類を作成することができる。 |
| 4年目 【5大がん】すべてのがん(8割以上)について1人で空白の項目なく正確に登録することができる(1日10件以上) 【住民票照会】1人で作業を正確に行うことができる。 | データセットの申請受付・提供ができる。 指導の下で国がんへの提出・県がん登録室への届出を行うことができる。 | 外部向けの研修会の講師を経験できる。 | がん登録以外の情報が必要なときに他部署と連携して解決策を検討することができる。 室長や副室長の代理として会議に参加することができる。 |
| 5年目 【5大がん】すべてのがんについて1人で空白の項目なく正確に登録することができる(1日30件以上) 【住民票照会】国がんへの提出・県がん登録室への届出を1人で行うことができる。 | 1人でデータセットの申請受付・提供ができる。 筆頭演者として資料を自分で作成し、学会発表を行うことができる。 | 実務者育成支援事業における指導を行うことができる。 外部向けの研修会の講師を担当することができる。 | 委員会(外部)の庶務を1人で行うことができる。 室長や副室長の代理として会議で適切な意見を言うことができる。 |